

第2回 生駒市総合計画審議会第三部会

1 日 時 平成25年7月11日(木) 14:00～

2 場 所 生駒市役所 4階 403・404会議室

3 出席者

(委員) 加藤委員、梶井委員、竹内委員、生川委員

(事務局) 今井企画財政部長、西川企画政策課長、岡田企画政策課長補佐、
岡村企画政策課企画係長 加納企画政策課係員

4 欠席者 室井委員

5 議事内容

(1) 各分野の検証

①No. 231 生涯学習

【担当課】 (検証シートについて説明)

【生川委員】 3点伺いたい。1つ目は、人材バンクの登録者数が減っている理由。2つ目は施設の運営が指定管理者になってどう変わったか。3つ目はいこま寿大学が4年制から2年制になぜ変わったのか、また年間受講料が上がったのはなぜか。

【担当課】 1つ目の回答。人材バンクには色々な分野があるが、美術、工芸、音楽など、趣味的な内容のニーズが多いので、そういう方々が講師や指導者として活動していただくことが多いが、技能的なものは登録も少なく御希望も少ない。せっかく登録していただいても、活用がないのであれば2回目の登録の更新は控えるという傾向がある。また、年齢的、体力的に指導するのは厳しいという理由で登録を控えますというようなケースがあり、そのようなことが理由だと分析している。

2つ目の回答。指定管理者による質の高い文化芸術を展開するということで、平成24年7月1日から、3年9カ月という条件で指定管理へ移行をしており、事業実施と施設の管理面を委ねるという形をとっている。その中で年間の概要報告があり、それぞれの自主事業に対してのアンケート調査をとっていただいたところ、「とてもよかった」、「よかつ

た」という方々が全体で86%という高い評価をいただいている。「よくなかった」という方はゼロで、「余りよくなかった」というのは、アンケートの全体数1,640名のうちの0.3%、人数にして5名だけだった。事業面では市民の方のニーズに合致したような事業を企画、計画していただいているのではないかなと考えている。

3つ目の回答。4年制から2年制に変えるという決定はまだしていない。ただ、申込多数で抽せん漏れの問題があるので、2年制にするといった方法も選択肢の1つじゃないかなということは事業調整会議の中で議論に上がった。

【加藤部会長】 4年制コース、2年制コース、短大コースとか、そんな取り合わせの組み合わせがあれば、供給を増やすことができるのではないかな。

【担当課】 寿大学については、1、2年生が第1学部というので、1年生、2年生が合同で1つのハイキングとか手芸とかクラブで異学年の方と一緒に活動をしていただくのがクラブ学習であり、一般教養は、全体で講演会とかあるいは音楽の鑑賞会であるとかの企画を市の方でやったものを学習の1単位として設けているので、短期大学みたいな形をつくるということになると、そういう仲間づくりというのが厳しいかなと思う。御卒業された方に伺っていると、やっぱり1つの大学の4年間の活動が楽しくできたという御意見をいただいたこと、また卒業してからどうやっていこうかと、地域の方との活動というのは、やっぱり寿大学を機会にグループで今でも活動しているということ、そういう理由もある。

受講料について。昨年、業務レビューという市の内部的な第三者の機関の方で見直しができないかなという御指摘をいただき、検討した結果、市の正規の職員の人件費を除いた総経費のおおむね2分の1の経費を学生さんに御負担していただくような形で受益者負担を進めていくべきではないかなということで、こちらから学生の委員さんの代表である皆さんと調整会議の方で打診させていただいた。3,000円から5,000円にするのが理想的だが、すぐに上げるのは厳しいかなと思い、25年度の新入生は4,000円、26年度以降の新入生の方は5,000円ということで、調整会議の中でお話をさせていただいた。

そこでの反論というのは特になかったが、それよりもクラブ学習の回数を増やしてほしいという御希望が多かった。それを5回から6回に増やし、25年度からは回数が増えた形で対応させていただいた。ただ、どういう形にしても、負担が上がるということはやっぱり御不満な方もいらっしゃると思う。

【竹内委員】 評価はCでいいと思うが、生涯学習まちづくりアニメーターについて伺

いたい。今、どれぐらいの人数が集まっているのか、また今後どう育てて、どういう形でお使いになっていこうとしているのか。それから、子供の読書活動の推進事業において、シニア世代と子育て世代の関わりについて御説明いただきたい。

【担当課】 アニメーターについては、市が補助している自主学習グループの活動で地域に還元していただくような形での公開講座の開催を想定しているが、そこを活発にさせていただくようにPRしていきたいと思っている。この活動に限らず以前は、福祉施設の慰問に行かれるなどは補助対象外だったが、それを補助対象に最近加え、活発にさせていただくように市の方からも説明会等を通じてお伝えしており、続けていきたいと考えている。また、図書館では、生駒お話の会というのがあり、語り手として、70代男性の方が2名、60代以上の方が半分ぐらい、あとの半分ぐらいが子育ての手が離れたのでというようなお母様方というところで御協力いただいている。

【竹内委員】 今後はアニメーターが例えば寿大学で企画をして活動する、シニアリーダーの企画マンとして育てていくという形ができると思う。シニアのために行政がお金を出す必要はなく、これからはシニア同士でやっていく仕組みを作り自主運営してもらう必要がある。

【加藤部会長】 寿大学、あるいは人材バンクの中で、読書、お話の会みたいなのがありますよと、そういうのに登録しませんかみたいな形で自主的なグループをつくっていただくという提案があったと思う。あと、大事なものはニーズであり、学校とか図書館でこういう人を求めているとなったときに、学校とつなげてあげる人、そのつなげるコーディネーター役を誰がするかということについては、アニメーターの人がやるのか、あるいは、最初は、弱かったら、行政がつなぎながら、そして、ちゃんとつないでもらってやっていくとか、いろんな仕掛けでもっともっとニーズが掘り起こせるところもあるかなということも大事なところかなと思う。次世代育成ということと生きがい対策の両面でということ。

【梶井委員】 市民の役割分担状況というところで、事業者も市民もe評価だが、設問に対して回答は、「余り取り組んでいない」、「全く取り組んでいない」が大半を占めている。事業者への質問で、施設の開放など、生涯学習活動を支援しているというのは、例えばどんな事業者にどのような取り組み方があると想定しているのか。

【担当課】 直接、個別の事業者と話はしていないが、商工会議所様を通してご協力いただいている。歴史文化の友の会というの、法人として商工会議所様も加入していただいております、今後はタイアップしていく必要があると思っている。

【梶井委員】 あともう1点、市民の1人当たりの図書貸出冊数が減少しているにもかかわらず、市民実感度評価ではポイントが上がっているということは、トータル的には、お話会とか文化活動とか、そのあたりが評価されて実感度が上がったということで理解して良いか。

【担当課】 はい。図書の貸し出しだけではなく、来ていただいたときにいろんな御案内もさせていただいているので、その辺で満足いただいているのかなとは考えている。

【梶井委員】 地域文庫については活動的には余り振るっていないとお聞きしたのだが。

【担当課】 地域文庫では、昭和53年からずっとされているかしの木文庫があるが今はそこだけしか残っていない。ただ、毎年7月に、生駒市子どもの本連絡会という団体とサマーフェスティバルというのをやっている。中身は、文庫のPRを中心に行っている。

【加藤部会長】 時代のいろいろなニーズによって形がどんどん変わっていくということ。評価はCにする。

②No. 232 青少年

【担当課】 (検証シートについて説明)

【生川委員】 2つの質問がある。平成24年の青年層の組織浸透はしていないということで、この点は、今後、PRをどういう展開にしていくつもりなのかというのが1点。2点目が、3-4(1)B No.16の地域ぐるみで、最近自治会にも入会されていない方がいたり、無縁社会になってきているかと思うが、その対策について。

【担当課】 青年層の組織の浸透について、青年層の人たちが、地域、ふるさと生駒に還元するというのは、なかなか時間的にも制約があって、参加していただけないケースが多い。新成人の成人式運営委員会の方で、自分たちの成人式、手づくりの成人式をやっていこうということで、毎年、企画運営をしていただいている。今年の成人式は、生駒山麓太鼓と、南中ソーランという踊りを行った。これが例年だと一過性で終わってしまっていたが、せっかくこうやって新成人式の方が集まっていた集いがあったということで、そのうちの何人か、踊りと太鼓のメンバーさんが中心となって、今現在、OB会の組織化の方を進めていただいている。立ち上がるまではできるだけ市の方で支援していきたいということで、いろんな会合、活動の橋渡しの方をさせていただいている。

地域ぐるみの児童生徒健全育成推進協議会の活動については、教育総務部の方の所管になっており、生涯学習課では生駒市青少年指導委員ということで、自治会の選出あるいは

P T A、それから学校の教職員の先生方合わせて127名が青少年指導委員さんになっていただき、青少年指導の方の活動をしていただいている。

【竹内委員】 評価はC。青少年指導の方の活動においては、万引きとかいろんな非行の実態というのは出てきているのか。もう1つは、非行している青少年の中には不登校とかいろんな問題が出てきていると思うが、それを教育委員とどう連動しながらやっつけようか。

【担当課】 青少年指導は、グループで指導していただいている。今までは万引きとかそういうのをしているところを見つけたという報告はいただいている。どちらかという、たむろしていたら「時間も遅いから早く帰りや」とか、そういう声かけを中心にしていただいている。

【竹内委員】 地域の人たちと交流する場というのは、具体的にはどういう場を指しているのか。

【担当課】 例えば、青少年指導委員の中学校区ごとに巡回指導の活動をしていただいております。中学校区ごとの教職員の先生方、自治会、P T A、そこで集まっての交流を図っていただいている。具体的な場としては、いこまっこ教室などの創作活動を始めた子供対象の事業をするとか、親子で何かやる、手づくりの何かをしていこうとか、そういうものに場所、機会を提供させていただいている。また、ボーイスカウト、ガールスカウトでは、スカウト協議会というのがあり、市の方は事業の支援ということで、補助金を交付させていただいている。スカウト協議会は独自で活動をなさっておられる部分があるが、そこで子供たちあるいは親子を対象とした事業をなさっておられるものに対して補助をしている。

【加藤部会長】 ニートや不登校のニートの子たちが相談できる場所や、交流の場はあるのか。

【担当課】 生涯学習課では、お困りの御家族など子供さんが引きこもって出てこないというようなことで、地域の方とか御家族が問題を抱えておられる方が相談に来ていただいている。交流の場については、教育総務部所管で教育支援施設エルというのがあり、不登校の児童・生徒を集めて指導をしていただいている。

【加藤部会長】 指標にできるかどうかは分からないが、本当は子供の意見、青少年の意見みたいなものが欲しいと思う。例えば、今、何かお祭りで成人式に参加した子供たちが、何か仕掛けてやっつけようという。だから、そういう自分たちの満足度というか、育って

いっている、その子たちの意見みたいなものが何か出てきてくれたらうれしいなと思う。
主役の子供たちの声というのはすごく大事だと思う。

【竹内委員】 生涯学習は2つの役割があると思う。リーダーになるような立派な青少年を育てるということと、不登校やニート、非行の問題をどう指導するかということ。後者の方は、生涯学習なのか教育委員会の役になるのか、そこらがよく分からない。これがプロジェクトでやっているという形が出てくれば、よりもっと明快に分かりやすくなると思う。

【加藤部会長】 さらに、義務教育が終わり社会からドロップアウトしそうな子たち、16～19歳が今、非常に宙に浮いている。そこら辺をどう大人につなげていってあげるかというのがすごく大事なので、成人式なんかで盛り上がってくるそういう元気な兄ちゃん姉ちゃんたちをモデルにして、自分たちも頑張る。そういう大人になる前のつなぎみたいなものが、教育委員会か生涯教育か、全部で何かできていけるような仕掛けみたいなものがあればいいなと思う。

【梶井委員】 補助指標No. 2 青年層リーダーの育成数は新規か累計か。

【担当課】 ここの実績は、累計。

【梶井委員】 気になったのは、同じメンバーがずっといてこの15名を上回っているという状態であっても、あるとき、ある年齢に達して一気に抜けたら、新規を獲得していないと人数が大幅に減るのではないか。

【担当課】 現在、25年の新成人を中心に10名程度のグループを作っていただいている。26年にはまた新成人の成人式運営委員会の委員募集をするので、それを引き継いでいけるような形でやっていけないかなと考えている。そこが例えば今の青年協議会、青年団と一緒にできるようなもので青少年の輪が広がっていけば、自然と下の子供たちにも影響が大きくなっていくのかなと思う。

【梶井委員】 そのまま青年協議会に入ってもらって。

【担当課】 はい。そういう連続性ができたらいいなとは思っている。

【梶井委員】 青年協議会のメンバーの高齢化というのがあり得るんじゃないかなと思う。新規の方が来なかったら、なあなあになってつながりにくくなってしまうと思うので、もうちょっとPRをお願いしたい。ポスター、チラシなど、いつでもどうぞみたいにならずと張りっ放しでいけるような何かそういうPRの仕方とかも、もうちょっとあったらどうかなと。あすなる会という名前すら知らない青少年が多いかもと思ったので。

【加藤部会長】 評価はCとする。

③No. 241 文化活動

【担当課】 (検証シートについて説明)

【生川委員】 コンサートの収益状況について質問したい。

【担当課】 コンサートの収益状況、市の主催事業については市の収入になるが、指定管理者のコンサート事業については、指定管理者の独立採算でやっていただいている。指定管理者の事業報告の方を見せていただいたら、コンサート関係にかかわるものとしての収支でいくと、160万ほど赤字で自主事業をしていただいた。講座関係では37万円ほどの黒字を出されている。

【生川委員】 3-4(1)B No. 12のスタッフ不足について。

【担当課】 例えば、市民文化祭で御協力いただいているのは芸術協会の皆さんであり、そのメンバーさんというのは、ご高齢で後継者がなかなか見つからず、育成はされているがスタッフとして若い年代の方というのが不足している。反対に、邦楽邦舞関係の発表会では若い世代の後継者の方がたくさん来られており、割とスムーズに移行できているかなと思う。主に手工芸関係、芸術面での後継者不足を危惧している。

【生川委員】 3-4(2)A No. 22 スクラップ&ビルドの具体的な意味についてお伺いしたい。

【担当課】 取組項目として第5次総合計画を策定した際に、指定管理や生涯学習施設の使用料の問題、使用区分、施設を効率化して活用していただくような課題、あるいは市民参加の事業と、質の高い文化を提供するという上での課題が書かれている。その点については生駒市は昨年からは指定管理者制度になり、質の高い文化を市民の方に提供できるような事業を指定管理者にやっていただいているし、市民参加していく事業ということであれば、各団体が協働でやっていただいている、という実態がある。

【生川委員】 外国人の文化はどう配慮されているのか。

【事務局】 外国人はおよそ1,000人でそのうち、在日の方が400人ぐらい、先端大の学生と家族が250人。

【担当課】 わいわいワールドというのがあり、年に1回、昨年では11カ国の生駒市にお住まいの外国人の方と日本の子供たちが一緒に異文化交流という形で開催した。昨年は225名の参加があった。班分けをして、各国のブースを置いて、グループごとで回り、

そこの国の文化であるとか遊びとか語学、挨拶とか、そういう交流を通じて、それぞれの国を分かっていたかのような事業もさせていただいている。

【竹内委員】 これからの少子高齢化を見据えて、子供にターゲットを絞っていく教育みたいなのを考えているならば、その子供に感性が育つような文化的なもの、シンボルがあってもいいと思う。

【加藤部会長】 評価はCとする。

④No. 242 歴史・伝統文化

【担当課】 (検証シートについて説明)

【竹内委員】 行基を研究して、それを中心にして観光分野とリンクさせていくと良いと思う。拠点を定めるのではなく、1つのエリアとして展開していく戦略が有効だと考える。

【加藤部会長】 何かプロジェクトは組んでいるのか。ハード面ではなくソフト面で。

【担当課】 検討懇話会の中では、今おっしゃっていただいた行基をメインにするという御意見はいただいている。指定管理者からも歴史の市民学芸員であるとか子ども学芸員、あるいは生駒の検定をすとか、いろんな企画を御提案いただいている。ただ、観光資源という位置づけと文化財保護という2面性があると思うので、その兼ね合いが難しい。

【加藤部会長】 評価はCということで。

⑤No. 243 スポーツ・レクリエーション

【担当課】 (検証シートについて説明)

【竹内委員】 子供の体力、運動能力というのは、評価もそんなに高くないが何かカリキュラムを組んで教育委員会を通じて体力測定をやっているのか。

【担当課】 スポーツ振興課としてはしていないが、学校では体力測定をしている。

【竹内委員】 カリキュラムを組んでしていただくと効果的だ。

【担当課】 スポーツ振興課から学校へカリキュラムを提案するのは難しい面があるが、放課後、学校以外の部分では体育のスポーツ教室とか、体育館の無料開放とか、学校の開放とか、そういうことは実施している。また、総合型地域スポーツクラブについては、40人の定員に対し50人の応募があった。

【加藤部会長】 やはりそういう企画をされたら50人ぐらいは集まるということ。兵

庫県は児童館でNPOが雇われて、そこでスポーツをやっている。だから、いろいろなスポーツの機会を増やしていくということが大事だ。

【担当課】 プロバスケットボールリーグの方が各学校へ指導してもらえるようなことも考えている。市内の体育館も平日に練習で使っていただくということで、その中でまた各学校へも指導も兼ねて教えてもらうということも検討している。プロサッカー選手には取得を計画しているサンヨースポーツセンターを活用していただいて広めていけるのではないかと考えている。

【竹内委員】 さらに、スポーツ科学アカデミーセンターみたいな形で、トレーニングと、それから体力測定とケアもできる、リハビリなんかできる、そういう活用方法もあるのではないかと考えている。

【担当課】 今、県が、樫原公園の一角を使って改修されて、そういうような企画をしている。ジョギングステーションと一緒にそういう相談できるような場所も設けられているので、今後は、そういうことも視野に入れながら進めていきたいと考えている。

【加藤部会長】 スポーツ施設のバリアフリー化を進めているということですが、実際に障がい者のためのスポーツ参加というのは、どのようなものがあるのか。

【担当課】 むかいやま公園と北大和のスポーツ施設に、障がい者用のシャワーを設置させていただいたのと、障がい者用の卓球台2台を総合公園に設置した。

【生川委員】 市民アンケートによる目指す姿の進捗度が低い原因をどう考えているか。

【担当課】 身体はスポーツをしたから元気にはなったが、心は病んだままとか、身体と心と両方ともが健康ということが指標達成を難しくしているのかなと思う。

【加藤部会長】 なかなかそこまで読めないで、分かりにくい。

【竹内委員】 この目指す姿の文言に問題があるのではないかと。

【担当課】 去年の会議でもその話は議論になっていたのですが、今後は見直しさせていただきたい。

【竹内委員】 指標についてもA評価だが、目標が低い気がする。

【担当課】 指標No. 1の人数が大幅に増加したのは、22年4月からきらめきのプールができたことが理由。

【加藤部会長】 評価はBにします。以上で本日の案件は終了しました。